

教 育 研 究 業 績

2019年5月1日

氏名 石崎 一記

学位 教育学修士（心理学）

研究分野	研究内容のキーワード	
心理学（教育心理学）	発達心理学、カウンセリング	
主要担当授業科目	発達心理学、グループアプローチ、健康カウンセリング実習	
教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概 要
1 教育方法の実践例 一斉授業における対話のある授業 原書購読におけるジグソー学習の導入	平成12年4月1日～ 現在に至る 平成14年4月1日～ 平成16年3月	一斉講義の問題点を克服するため、90分の講義を3つに区切り、まとまりごとにテーマを与え、近くの席で構成されたグループでの討議を行い、その結果を発表させて、それに対してコメントや補足を行いながら授業を進めている。分担式、当日指名式両者のメリットを生かすため、各グループから同じ場所の担当者同士が集まって担当箇所を確認を行い、グループに戻った後に担当者がリーダーとなって、全員が学習課題全体を理解する方法で学習を指導した。
2 作成した教科書、教材 「図でわかる発達心理学」福村出版	平成9年4月20日	初学者にも理解しやすいという観点で図表を多く取り入れながら、発達について側面ごとに解説を行った。新井邦二郎、片山尊文、森和代、佐々木晃、古川聡、石崎一記、川瀬良美、高砂美樹、福田由紀、佐藤寛之、小林真、高尾正、丹羽洋子、萩原はるみ 第6章意欲の発達（p71-p82）188ページ中12ページ
3 教育上の能力に関する大学等の評価	平成12年4月1日～ 現在に至る	授業に活気を持たせるためにいくつかの工夫をしている点は評価できる。そのため学生、院生の動機づけを高めるのに役立っている。また、授業だけでなく、学生、院生を積極的に接触し、勉学や研究に関する相談に応じている。
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
5 その他 公認ネイチャーゲームトレーナー 公認CONEトレーナー2種	平成17年12月～ 平成17年12月～	幼児・児童の生態学的理解と感性・動機づけのメカニズムを検討するために、環境教育プログラムであるネイチャーゲームトレーナーの資格を取得し、実践・指導者の養成を行っている。さらに、それらを生かして、発達臨床心理問題に対する新しい解決方法の提唱を行っている。
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概 要
1 資格、免許 学校心理士 公認ネイチャーゲームトレーナー 公認CONEトレーナー2種 1級キャリア・コンサルティング技能士	平成12年10月 平成17年12月 平成17年12月 平成27年3月	学会連合資格「学校心理士」認定運営機構（公社）日本シェアリングネイチャー協会 自然体験推進協議会 厚生労働大臣
2 特許等		
3 実務等の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1. いじめのメカニズム (シリーズやさしい心理学)	共著	昭和61年5月	教育出版(株)	社会問題となっているいじめについて、現代っ子のいじめの特徴、調査に基づく実態、原因の分析、攻撃性、愛他性との関連について考察し、いじめを作らないための方策と、指導・治療の方法について提案した。 高野清純、石崎一記、渡辺弥生、原野広太郎、桜井茂男、庄司一子、丹羽洋子 第2章 弱いものいじめの実態 (P23～50)180ページ中18ページ
2. 4年生の発達のとらえ方と指導	共著	昭和 62年 4月	教育出版(株)	発達心理学、授業心理学、児童臨床心理学の立場から、小学校教育のための具体的総合的指針を提供するために、1年生から6年生までの発達の特徴と指導について解説したもののうち、4年生についてのものである。4年生の発達の特徴、授業のポイント、教室の人間関係、適応指導、家庭の役割について考察した。 杉原一昭、落合幸子、大根田之彦、島本恭介、菊地龍彦、今井忠男、原田悦子、田中敏、勝倉孝治、丹羽洋子、石崎一記、渡辺弥生、小野瀬雅人 第4章 子どもの適応指導 第3節責任感のない子ども (P150～154) 186 ページ中 5 ページ
3. 学習指導用語事典	共著	昭和 62年 6月	教育出版(株)	教育思想や学習理論の変化、精神衛生、教育学、情報科学といった隣接する学問の発展の影響を受けて、変化しつつある学習指導の用語について、学習指導の重要な問題は何か、どのように考えたら良いか、今後どのように対応すべきかについて正しい情報が得られるように編集した辞典である。 辰野千寿、杉原一昭、田中敏、福沢周亮、南館忠智、石崎一記他 IV学習指導とその方法2. 指導 ブレイン・ストーミング (P142) 317 ページ中 1 ページ
4. こころのサイエンス	共著	昭和63年4月	(株)文化書房 博文社	教養のための心理学の概説を目的に編集された。身近な問題を親しみやすく解説するために、心理学とは何か、学習の心理、記憶の心理、性格の心理、知能の心理、発達の心理、動機づけの心理、感覚・知覚の心理、人間関係の心理、恋愛の心理、盲人の心理、情緒とその障害、子育て論、心の健康、動物の心理、スポーツの心理と幅広く取り扱われている。横山雅臣、徳田克己、加藤哲文、菅野敦、石崎一記、福井ふみ子、金城悟、角本芳樹、増井誠一郎、横山知弘発達の心理 (P83～100) 第7章 動機づけの心理 (P101～116) 266ページ中34ページ

5.無気力 原因とその克服 (シリーズやさしい心理学)	共著	昭和63 年4月	教育出版(株)	現代の多くの教育問題の根底にあると思われる無気力について、最新の理論を用いながら、無気力と現代教育、無気力のメカニズム、発達とやる気の分化、無気力と家庭、無気力と学校、無気力をつくらないために、無気力を直す、について論じた。高野清純、石崎一記、中山勘次郎、渡辺弥生、丹羽洋子、藤生英行、吉永裕子第2章 無気力のメカニズム (P17~44)186 ページ中 28 ページ
6.乳幼児の発達とその指導	共著	平成3年 4月	東京教科書出版(株)	主に短期大学や専門学校で幼稚園教諭や保育を志望する学生、生徒を対象に、乳幼児の発達と指導上の留意点について、身体運動、人格、情緒、認知、言語、表現能力、社会性、道徳性、保育形態、問題行動の各観点から論じた。 久保田力、晴山紫恵子、成田弘子、石崎一記、福田由紀、加藤邦子、武司、米澤芳子、渡辺弥生、石川洋子 第4章 認知能力の発達とその指導 (P57~76) 191 ページ中 20 ページ
7.図で読む心理学「学習」	共著	平成3年 5月	福村出版(株)	大学での教職課程の改定に対応して「学習」に関する領域を心理学的な立場から、教師論、学習と障害、動機づけ、個人差、学級集団、知能、人格、創造性、自己概念、達成行動、学習の原理、学習の諸相、教授・学習、学習の自動化、教育評価といった観点で論じた。 奥山和夫、新井邦二郎、桜井茂男、遠藤純代、佐々木晃、金子幾之輔、山下直治、次郎丸睦子、石崎一記、片山尊文、福田幸男、小野瀬雅人、奥野正義、内野康人之 第10章 やる気を分析するー達成行動ー (P115~122)184 ページ中 8 ページ
8.学校教育相談カウンセリング辞典	共著	平成6年 1月	教育出版(株)	教育相談やカウンセリングに携わる教師などを対象に、問題行動の様相、理解の仕方、指導や介入の方法を問題行動、児童理解、カウンセリングの進め方、学校教育相談、生徒指導、親とのかかわり、地域との連携などの領域にわたって、取り上げた事典である。 高野清純、國分康孝、西君子、石崎一記他 第1部 子どもの問題とかかわり方 いじわる(P5)、いたずら(P6)引込み思案(P78)、無気力(P85)521 ページ中 4 ページ
9.事例発達臨床心理学辞典	共著	平成6年 4月	福村出版	発達の過程で生じる心の問題について、臨床家や学生の実践的要求に応えられることを目標に、心理学的基礎概念に加えて、発達段階別に主な問題行動と、指導の方法を、事例を交えながら編集した辞典である。 高野清純、杉原一昭、渡辺弘純、新井邦二郎、庄司一子、石崎一記他 第1部 心理学的基礎概念 自己決定感(P36)、性の意識(P56)、性役割(P56) 第2部 発達段階別編4.幼児期 自慰(P163~164)、性器いじり(P177)
10.教室の動機づけの理論と実践	共著	平成7年 5月	金子書房	実際の教育現場での要求に応えながら動機づけとそれに関わる領域の知見や理論を、教室の動機づけの新しい流れ、教室の動機づけの計画化、教室内の内発的動機づけと外発的動機づけ、子どもの性格と動機づけ、達成目標と動機づけ、能力の認

				知と動機づけ、自己決定と動機づけ、学級の雰囲気と動機づけ、教育評価と動機づけ、コンピュータ利用教育と動機づけ、教師と動機づけ、注意の集中できない子どもの動機づけ、メンタルヘルスと動機づけ、動機づけの測定といった観点から論じた。 新井邦二郎、谷島弘仁、石崎一記、中山勘次郎、伊藤篤、藤生英行、桜井茂男、坂西友秀、内野康人之、塚田紘一、渡辺弘純、広田信一 第3章 教室内の内発的動機づけと外発的動機づけ(P40～56) 245ページ中17ページ
11. 子どもの発達とつまずき	共著	平成8年 3月	教育出版(株)	子どもを理解するために、その発達の様相とつまずきの原因、対応について、健康、ことば、認知、感情、欲求、我慢、愛他性、家庭、ニューメディア、学校、授業、遊びの観点から論じた。 高野清純、小林真、石崎一記、岩立京子、丹羽洋子、中山勘次郎、庄司一子、首藤敏元、渡辺弥生、川島一夫、濱口佳和、河野義章、藤生英行 第3章 ことばの働きとつまずき (P20～29)135 ページ中 10 ページ
12. 発達心理学と子どもの成長(講座子どもの発達・教育・臨床 I)	共著	平成8年 5月	八千代出版	生涯発達という展望の中で、胎児期から思春期までをとらえ、各発達段階で顕著な発達の側面を様々な観点から論じた。 滝沢武久、中澤潤、田中昭夫、山口雅史、中村美津子、上原明子、天野珠子、清水佐保子、小杉洋子、松本敦、石崎一記、尾形和男、会津力 V. 児童期 4. 学習意欲と達成動機(P160～173)205 ページ中 14 ページ
13. 図でわかる発達心理学	共著	平成9年 4月	福村出版	初学者にも理解しやすいという観点で、図表を多く取り入れながら、発達について、側面ごとに解説を行った。 新井邦二郎、片山尊文、森和代、佐々木晃、古川聡、石崎一記、川瀬良美、高砂美樹、福田由紀、佐藤寛之、小林真、高尾正、丹羽洋子、荻原はるみ 第6章 意欲の発達(P71～82)188 ページ中 12 ページ
14. 図でわかる学習と発達の心理学	共著	平成12 年4月	福村出版	主に教職課程での教科書としての使用を目的に、教育心理学の内容から、発達及び学習に関する領域について図表を多く取り入れながら、わかりやすく解説した。 新井邦二郎、河村茂雄、中津山英子、出口毅、塹江光子、山下直治、平山洋子、平山祐一郎、広田信一、高尾正、塚野州一、石浦美輝子、石崎一記、小松信一、春日菜穂美 第12章 感情の発達(P147～160) 183 ページ中 14 ページ
15. エンカウンスキルアップ	共著	平成13 年6月	図書文化	カウンセリングのグループアプローチの一つである構成的グループエンカウンターのリダーを行う上で必要なこと、学ぶべきことについて、実際に教育場面等で実践している教育者、研究者が、様々な観点からそのノウハウについて解説した。 國分康孝、國分久子、石崎一記他 第5章 シェアリングコラム「教師のサポートグループ」P164、221ページ中1ページ

16. 現代カウンセリング事典	共著	平成13年 12月	金子書房	<p>カウンセリングと心理療法とを区別するべきであるという考えに基づいて、現代社会におけるカウンセリングの意義、役割、問題と解決の方法、背景理論等について編纂された辞典である。</p> <p>國分康孝、石崎一記他</p> <p>5章 学校教育とカウンセリング 発達心理学とカウンセリング P127</p> <p>11章 予防的・開発的カウンセリング 3節社会生活と生涯学習 ネイチャーゲーム P297</p> <p>12章 問題解決的カウンセリング 2節児童期問題への対応 勉強に集中できない子 P335 3節青年期前期の問題への対応 キレル子 P342 友達を作れない子 P346</p> <p>436ページ中5項目</p>
17. 入門者のためのスクールカウンセリングの進め方	共著	平成14年 2月	福村出版	<p>学校で行われるカウンセリングをスクールカウンセリングにとらえ、教師、専門機関が行うカウンセリングに分けてそれぞれにとって必要な知識や考え方、相互の連携について深く言及した。</p> <p>高野清純、田上不二夫、石崎一記他</p> <p>4章 観察による理解の進め方 P56～69 185ページ中 14ページ</p>
18. はじめて学ぶ人の臨床心理学	共著	平成15年 4月	中央法規出版	<p>臨床心理学を学ぶ人のための概説書として、臨床心理学を学ぶことの意義、主な理論や技法、心の仕組みと人の発達、アセスメント、治療などについて論じた。第3章心の仕組みと発達</p>
19. 最新教育心理学	共著	平成16年 1月	図書文化社	<p>教職、保育者を目指す人を対象に編まれた教育心理学についての教科書である。現場での課題に応えられるように、実際の場面想定した点や採用試験対策に役立つ点に工夫を凝らした。桜井茂男、中山勘次郎、石崎一記他 第2章発達を促す、p 23-39、223 ページ中 17 ページ</p>
20. 学級経営と授業で使えるカウンセリング	共著	平成16年 2月	ぎょうせい	<p>学級経営と授業で使えるカウンセリングの考え方、理論、技法について幅広く解説した。会沢信彦、植草伸之、石崎一記他、授業作り編特別活動環境ネイチャーゲーム、p158-p163、210 ページ中 6 ページ</p>
21. 教育カウンセラー標準テキスト初級編	共著	平成16年 5月	図書文化	<p>教師により学校でのカウンセリングの理論と実践のための標準テキストである。教育カウンセリングの理論、技法、課題について広く論じた。國分康孝、新井邦二郎、石崎一記他 第3章教育カウンセリングの方法とスキル第1節個別面接の基本技法 p 64-73 192ページ中10ページ</p>
22. 最新学習指導用語事典	共著	平成17年 6月	教育出版	<p>教育思想や学習理論の変化、精神衛生、教育工学、情報科学といった隣接する学問の発展の影響を受けて、変化しつつある学習指導の用語について、学習指導の重要な問題は何か、どのように考えたら良いか、今後どのように対応すべきかについて正しい情報が得られるように編集した辞典である。現代教育の課題に応えられるよう前身のもの元に編集しなおした。辰野千寿、杉原一昭、田中敏、福沢周亮、南館忠智、石崎一記他</p> <p>IV学習指導とその方法2. 指導 ブレイン・ストーミング (P140) 319ページ中1ページ</p>

23. 発達臨床教育相談マニュアル	共著	平成18年3月	川島書店	発達臨床に関する理解と対応について、特別教育支援等実際の場面でマニュアルとして活用されることを想定して編集されている。杉原一昭、石崎一記他、第1部幼児期指しゃぶり、性器いじり p 76-p81 269ページ中4ページ
24. 教育評価事典	共著	平成18年6月	図書文化社	教育評価に関する理論的、実践的課題に答えるために編まれた事典である。新井邦二郎、海保博之、石崎一記他 第6章適性、興味、意欲、態度の評価第2節意欲の評価、達成欲求p257、内発的—外発的動機付けの尺度p264 549ページ中2ページ
25. 自然体験学習論—豊かな自然体験と子どもの未来	共著	平成18年4月	高文堂出版社	自然体験学習について、主に環境教育学的な観点からその原理と実践例についてまとめたものである。特に、教育心理学的な視点から、自然体験学習の学習原理、学習者の発達と人格、評価の課題を論じた。朝岡幸彦、石崎一記他 第3章自然体験学習と教育心理学 p76-p90、223ページ中15ページ
26. カウンセリング心理学事典	共著	平成20年	誠信書房	グループアプローチの諸形態 (pp159-161) コールバーグ (p 531)
27. 現代用語の基礎知識 2009年度版	共著	平成21年		
28. 現代用語の基礎知識 2010年度版	共著	平成22年		
29. 「たのしく学べる乳幼児の心理」	共著	平成22年	福村出版	第5章情緒と欲求 pp65-78
30. 「ポジティブマインド—スポーツと健康積極的な生き方の心理学—」	共著	平成22年4月	新曜社	人間の本来的な強さに着目して心身の健康の維持と増進を目指す、スポーツ心理学、健康心理学、ポジティブ心理学の基本知識と最新の成果を、40のキーワードで解説。海保博之、石崎一記他 (第2部 pp84-138)

(学術論文) 1. 「心理学」に対する女子学生のイメージ—一般教育科目のイメージに関する研究、その2—	共著	昭和63年12月	北海道女子短期大学研究紀要第23号	大学教育の在り方を検討するために、哲学、心理学、法学という科目に対する学生の態度の測定と考察を行った一連の研究のうち、心理学に関するものである。一般教育としての心理学は、基礎科的科目、教養的科目の両面でもとらえられていることが明らかにされた。 石崎一記、白佐後憲、浅井幹男、阿部包 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 (P37-40) 14 ページ
--	----	----------	-------------------	---

2. 自己決定が児童の課題遂行に及ぼす影響	単著	平成元年12月	北海道女子短期大学研究紀要第24号	課題選択の自由が自己決定感を高め、それに基づいて内発的動機づけが高まるために課題遂行がより高まると言う仮説に基づき、小学生を被験者に実験を行った。結果は仮説を支持する傾向が見出された。そこから、教育現場においても、児童の自主性を尊重することの重要性が示唆された。(P139～148)10 ページ
3. 「いじめ」は今どうなっているか	単著	平成4年4月	学級担任のための子どもの心がわかる本(児童心理臨時創刊)第46巻第5号	社会問題化したいじめの問題について、文部省の調査結果に基づきその現状を分析し、対策について考察した。10年前と比較して、改善されていないこと、またむしろゲリラ化して教師に分かりにくくなっている点が指摘された。(P124～133)10 ページ
4. 叱り方、ほめ方のコツ	単著	平成5年12月	実践読本生活習慣のしつけ方(児童心理臨時増刊)第47巻第18号	動機づけの観点から、行動の統制であるしつけの方法としての報酬の付与である叱ること、ほめることの功罪を論じた。それに基づいて5点にわたり、望ましい叱り方、ほめ方について考察した。(P47～53)7 ページ
5. 自己決定力はこうして育つ	単著	平成7年12月	児童心理第49巻第17号	自己決定力に必要な力を5つ取り上げ、それぞれを育てるために、周囲の大人が配慮すべき点について論じた。(P57～64)8 ページ
6. 「自立心を育てる友達関係」	単著	平成11年12月	児童心理第53巻第2号 金子書房	他者との望ましい人間関係を保ちながら健康と独立性を保とうとする意思を自立心と捉え、友人関係においてそれがどのように発達するか、またそのために周囲の大人がどのような配慮をすべきかについて論じた。(P25～30)6 ページ
7. 「二人きょうだいの心理と育て方」	単著	平成13年2月	児童心理第55巻第3号	出生順位と性格との関係に関する研究を概観し、親がそれぞれの子供に対して接する際の基本的態度、方針について論じた。(P82～87)6 ページ
8. 援助的サマースクールの研究(その1) 研究の概略	共著	平成15年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第3号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に、ここではサマースクールの原理、概要、研究計画の全体について論じられた。石崎一記、杉原一昭、勝倉孝治、共同研究につき本人担当部分抽出不可能、p43-50、8ページ
9. 援助的サマースクールの研究(その2) 女児の集団生活における人間関係の変容と成長について	共著	平成15年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第3号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に、参加者の中の女児に注目し、彼らの人間関係の変化について論じた。溝口祥子、高橋恵子、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能、p51-p62、12ページ
10. 援助的サマースクールの研究(その3) 知的障害児への有効性に関する事例の検討	共著	平成15年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第3号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に、参加者の中の知的障害児に注目し、彼らに変化と対応の方法について論じた。荒井崇史、松山実希、小高愛子、石崎一記。共同研究につき本人担当部分抽出不可能、p63-p71、9ページ

11. 援助的サマースクールの研究（その4）3名の小学校4年生男児の変容に関する事例の検討	共著	平成15年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第3号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に、3名の4年生男児の相互作用について、自然体験、集団生活の影響の観点から論じた。鈴木誠志、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能、p72-p83 12ページ
12. 援助的サマースクールの研究（その5）異年齢児の相互作用に関する事例の検討	共著	平成15年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第3号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に集団生活における異年齢集団の形成とそこでの人間関係が発達に及ぼす影響について論じた。柴田右一、石崎一記他、共同研究につき本人担当部分抽出不可能、p84-p105、12ページ。
13. 援助的サマースクールの研究Ⅱ（その1）	共著	平成16年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第4号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に、発達を支援するスタッフの視点からその成長過程について論じられた。酒井茂樹、石崎一記。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p59-p70 12ページ
14. 援助的サマースクールの研究Ⅱ（その2）	共著	平成16年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第4号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。そのために数量的なデータを示すために事前事後に調査を行い、その結果に基づいて子どもたちの変化について論じた。三田洋平、石崎一記他、共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p71-p76 6ページ
15. 援助的サマースクールの研究Ⅱ（その3）	共著	平成16年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第4号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に前年度も参加している参加者を取り上げ、前年度との比較を通して、繰り返し参加する効果について論じた。樺沢敏紀、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p77-84 13ページ
16. 援助的サマースクールの研究Ⅱ（その4）	共著	平成16年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第4号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に、知的障害児に着目し、彼に対する援助とその兄弟の障害受容へ働きかけのあり方について検討した。東達彦、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p85-92 8ページ
17. 援助的サマースクールの研究Ⅱ（その5）	共著	平成16年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第4号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に女児3名の期間中の行動を事例として取り上げ、スタッフとの相互作用、彼らの発達的变化について論じた。小沼美香、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p93-p102 10ページ
18. 援助的サマースクールの研究Ⅱ（その6）	共著	平成16年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第4号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に男児3名の期間中の行動を事例として取り上げ、スタッフとの相互作用、彼らの発達的变化について論じた。加藤多恵子、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p103-p112 10ページ
19. 家庭・地域で「いのち」を教える 自然体験と野外活動を通して	単著	平成17年2月	児童心理2月号臨時増刊第59巻3号	自然体験活動、野外活動が子どもの発達に及ぼす影響とそのメカニズムについて論じた。その中で、自然体験活動が命のつながりを体験する良い学習機会であることが指摘された。 p100-p104 5ページ
20. 援助的サマースクールの研究Ⅲ（その1）	共著	平成17年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第5号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に、前前年度、前年度の反省を踏まえ、3年目としてどのように行われたのかについて、研究の概略が論じられた。石崎一記、杉原一昭、他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p11-16 6ページ

22. 援助的サマースクールの研究Ⅲ（その2）	共著	平成17年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第5号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に低学年児童について、期間中の行動とスタッフのかかわりについて事例として取り上げ、その影響について論じられた。松川泰子、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能
23. 援助的サマースクールの研究Ⅲ（その3）	共著	平成17年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第5号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に中学年女児の対人関係の変化に焦点をあてて、期間中の行動について検討が行われた。高野桂実、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p31-p44 14ページ
24. 援助的サマースクールの研究Ⅲ（その4）	共著	平成17年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第5号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に中学年男児の対人関係の変化に焦点をあてて、期間中の行動について検討が行われた。井田梢恵、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p45-p58 14ページ
25. 援助的サマースクールの研究Ⅲ（その5）	共著	平成17年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第5号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に初参加の高学年児童の対人関係の変化に焦点をあてて、他の参加者との関係構築、期間中の行動について検討が行われた。宮本奈緒、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p59-p66 8ページ
26. 援助的サマースクールの研究Ⅲ（その6）	共著	平成17年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第5号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に、自閉性障害をもつ児童へのかかわりについて、期間中の行動や相互作用に基づいて検討された。新井裕、石崎一記他。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p67-73 7ページ
27. 職場におけるカウンセリングマインド尺度の作成	共著	平成17年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第5号	カウンセリングマインドの概念を民間会社における上司一部下関係において整理を行い、上司のカウンセリングマインドを測定する尺度を開発した。南哲二、石崎一記 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p94-p103 10ページ
28. 援助的サマースクールの研究Ⅳ（その1）	共著	平成18年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第6号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に今まで4回の実施により明らかになった知見に基づいて、援助的サマースクールの原理とスタッフ支援のあり方についての理論が示された。石崎一記、杉原一昭。共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p41-p46 6ページ
29. 援助的サマースクールの研究Ⅳ（その2）	共著	平成18年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第6号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に低学年児童に焦点をあて、期間中の行動にもとづいて、彼らの発達のな変化について検討を行った。手塚久美子、石崎一記他 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p47-p58 12ページ
30. 援助的サマースクールの研究Ⅳ（その3）	共著	平成18年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第6号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に低学年男児の対人関係に焦点をあて、期間中の行動にもとづいて、彼らの発達のな変化について検討を行った。高沢佳司、石崎一記他 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p59-p70 12ページ
31. 援助的サマースクールの研究Ⅳ（その4）	共著	平成18年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第6号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に高学年男児に焦点をあて、期間中の行動にもとづいて、彼らの発達のな変化について検討を行った。中村明寿香、石崎一記他 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p71-p82 12ページ

32. 援助的サマースクールの研究Ⅳ（その5）	共著	平成18年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第6号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に高学年児童、中学生の対人関係に焦点をあて、期間中の行動にもとづいて、彼らの発達的な変化について検討を行った。阿部博子、石崎一記他 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p83-p92 10ページ
33. 援助的サマースクールの研究Ⅳ（その6）	共著	平成18年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第6号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に2名の自閉性障害児へのかかわりに焦点をあて、期間中の行動にもとづいて、彼らの発達的な変化について検討を行った。今友里恵、石崎一記他 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p95-p106 12ページ
34. 攻撃行動に影響を及ぼす状況要因と一般的信頼に関する検討	共著	平成18年5月	対人社会心理学研究	対人場面における攻撃行動を規定する状況要因と個人の特性である一般的信頼の交互作用を検討することを目的に、実験を行った。大和田智文、石崎一記 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 pp15-22 8ページ
35. 援助的サマースクールの研究Ⅴ（その1）	共著	平成19年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第7号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に小学校高学年の男子に焦点をあて、対人関係の変化について検討を行った。岡村未絵、石崎一記 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p20-p22 3ページ
36. 援助的サマースクールの研究Ⅴ（その2）	共著	平成19年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第7号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特にアスペルガー障害を持つ児童との関係の構築過程に焦点をあてて検討を行った。宮寺祐史、石崎一記 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p23-p27 5ページ
37. 援助的サマースクールの研究Ⅴ（その3）	共著	平成19年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第7号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に小学校6年生の女兒の対人関係、自己主張の変化、期間中の行動にもとづいて、彼らの発達的な変化について検討を行った。佐々木瑠美、石崎一記 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p28-p33 5ページ
38. 援助的サマースクールの研究Ⅴ（その4）	共著	平成19年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第7号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。アスペルガー障害を持つ女兒とのかかわりに焦点をあて、安全基地の役割について検討を行った。福田成浩、石崎一記 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p34-p37 4ページ
39. 援助的サマースクールの研究Ⅴ（その5）	共著	平成19年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第7号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に小学校5年生の女兒との関係性の変化に焦点をあて、彼らの発達的な変化について検討を行った。亀井麻里、石崎一記 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p38-p46 9ページ
40. 援助的サマースクールの研究Ⅴ（その6）	共著	平成19年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第7号	援助的サマースクールの実施を通して、自然体験と集団活動が子どもの発達に及ぼす影響について検討した。特に2名の自閉性障害児へのかかわりに焦点をあて、期間中の行動にもとづいて、彼らの発達的な変化について検討を行った。今友里恵、石崎一記他 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p95-p106 12ページ
41. 被攻撃者に関するネガティブな情報と一般的信頼が攻撃の表出に及ぼす影響	共著	平成19年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第7号	攻撃行動のメカニズムを検討するために実験法を用いて、被攻撃者に対するネガティブな情報がどのような影響を及ぼすのかについて、一般的信頼との関係の中で検討を行った。大和田智文、石崎一記 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 pp52-57 6ページ

42. 援助的サマースクールの研究VI (その1)	単著	平成20年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第8号	
43. 援助的サマースクールの研究VI (その2)	共著	平成 20年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第8号	
44. 援助的サマースクールの研究VI (その3)	共著	平成 20年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第8号	
45. 援助的サマースクールの研究VI (その4)	共著	平成 20年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第8号	
46. 援助的サマースクールの研究VI (その5)	共著	平成 20年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第8号	
47. 援助的サマースクールの研究VI (その6)	共著	平成 20年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第8号	
48. 援助的サマースクールの研究VI (その7)	共著	平成 20年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第8号	
49. 援助的サマースクールの研究VI (その8)	共著	平成 20年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第8号	
50. 援助的サマースクールの研究VI (その9)	共著	平成 20年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第8号	
51. 援助的サマースクールの研究VII(その1)	共著	平成 21年3月	東京成徳大学臨床心理学研究第9号	

52. 援助的サマースクールの研究Ⅶ(その2)	共著	平成 21 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 9 号	
53. 援助的サマースクールの研究Ⅶ(その3)	共著	平成 21 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 9 号	
54. 援助的サマースクールの研究Ⅶ(その4)	共著	平成 21 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 9 号	
55. 援助的サマースクールの研究Ⅶ(その5)	共著	平成 21 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 9 号	
56. 援助的サマースクールの研究Ⅶ(その6)	共著	平成 21 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 9 号	
幼児期の環境教育—発達心理学の立場から—	単著	平成 21 年	環境教育19 (1) pp111-112	
子どもの興味の発達—自然体験と大人のかかわりの重要性—	単著	平成 21 年	児童心理 63 (2) pp39-44	
57. 援助的サマースクールの研究Ⅷ(その1)	単著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	
58. 援助的サマースクールの研究Ⅷ(その2)	共著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	
59. 援助的サマースクールの研究Ⅷ(その3)	共著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	

60. 援助的サマースクールの研究Ⅷ (その4)	共著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	
61. 援助的サマースクールの研究Ⅷ (その5)	共著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	
62. 援助的サマースクールの研究Ⅷ (その6)	共著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	
63. 援助的サマースクールの研究Ⅷ (その7)	共著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	
64. 援助的サマースクールの研究Ⅷ (その8)	共著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	
65. 援助的サマースクールの研究Ⅷ (その9)	共著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	
66. 援助的サマースクールの研究Ⅷ (その10)	共著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	
67. 援助的サマースクールの研究Ⅷ (その11)	共著	平成 22 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第10号	
子どものストレスコーピング	単著	平成 22 年 12 月	児童心理 64(17) (通号 923)	p. 1460~1464
68. 援助的サマースクールの研究Ⅸ (その1)	単著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第11号	

69. 援助的サマースクールの研究IX (その2)	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	
70. 援助的サマースクールの研究IX (その3)	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	
71. 援助的サマースクールの研究IX (その4)	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	
72. 援助的サマースクールの研究IX (その5)	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	
73. 援助的サマースクールの研究IX (その6)	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	
74. 援助的サマースクールの研究IX (その7)	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	
75. 援助的サマースクールの研究IX (その8)	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	
76. 援助的サマースクールの研究IX (その9)	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	
77. 援助的サマースクールの研究IX (その10)	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	
78. 養育者への夫からのサポートと内的作業モデルの関連	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	

79. 自ら考え、学ぶ授業づくり：授業の中の動機づけ	共著	平成 23 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 11 号	
80. 援助的サマースクールの研究 X（その 1）	単著	平成 24 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 12 号	
81. 援助的サマースクールの研究 X（その 2）	共著	平成 24 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 12 号	
82. 援助的サマースクールの研究 X（その 3）	共著	平成 24 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 12 号	
84. 援助的サマースクールの研究 X（その 4）	共著	平成 24 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 12 号	
85. 援助的サマースクールの研究 X（その 5）	共著	平成 24 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 12 号	
86. 援助的サマースクールの研究 X（その 6）	共著	平成 24 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 12 号	
87. 援助的サマースクールの研究 X（その 7）	共著	平成 24 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 12 号	
88. 援助的サマースクールの研究 X I（その 1）	共著	平成 25 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 13 号	
89. 援助的サマースクールの研究 X I（その 2）	共著	平成 25 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 13 号	

90. 援助的サマースクールの研究X I (その3)	共著	平成 25 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 13 号	
91. 援助的サマースクールの研究X I (その4)	共著	平成 25 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 13 号	
92. 援助的サマースクールの研究X I (その5)	共著	平成 25 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 13 号	
93. 援助的サマースクールの研究X I (その6)	共著	平成 25 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 13 号	
94. 援助的サマースクールの研究X I (その7)	共著	平成 25 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 13 号	
95. 援助的サマースクールの研究X I (その8)	共著	平成 25 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 13 号	
96. 援助的サマースクールの研究X I (その9)	共著	平成 25 年 3 月	東京成徳大学 臨床心理学研 究第 13 号	
(その他) 1. 自己決定感が児童の課題遂行に及ぼす影響	単著	昭和61 年10月	日本心理学会 第50回大会	課題選択の自由が自己決定感を高め、さらに内発的動機づけが高まるという仮説を、課題遂行を指標に検証するための実験に基づく研究が報告された。仮説を指示する傾向が認められた。
2. 自己決定感が児童の動機づけに及ぼす影響	単著	平成元 年7月	日本教育心理学会第31回大会	課題選択の自由が自己決定感を高め、それによって内発的動機づけが高まるという仮説を、リッカートタイプの評定尺度法を用いた実験によって検証した。仮説を支持する結果が得られたことから、自己決定感を直接操作する手続の可能性が示唆された。
3. 「つながりのエクササイズ」	単著	平成13 年2月	初等教育資料 第782号	現代の教育の課題を「つながり」という視点から捉え、教育技法としての構成的グループエンカウンターとネイチャーゲームとを比較考察し、教育現場での有効性について論じた。

4. 木製大型複合遊具が児童の遊びと社会性の発達に及ぼす影響（1）	共著	平成15年8月	日本教育心理学会第45回大会	小学校に設置された木製大型複合遊具での児童の遊びの実態を観察し、その利用状況、利用の形態について検討した。石崎一記、市村操一他共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p576 1ページ
5. 援助的サマースクールにおけるスタッフの集団過程	共著	平成16年9月	日本カウンセリング学会第37回大会	援助的サマースクールにおけるスタッフの変容を、集団過程として捕らえ、今後のスタッフトレーニングの方法とその意義について論じた。石崎一記、酒井茂樹 共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p336-337 2ページ
6. 木製大型複合遊具が児童の遊びと社会性の発達に及ぼす影響（2）	共著	平成16年10月	日本教育心理学会第46回大会	小学校に設置された木製大型複合遊具での児童の遊びの実態と放課後の過ごし方について、質問紙法を用いて検討した。石崎一記、市村操一他共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p124 1ページ
7. 虐待不安を規定する要因（1）	共著	平成17年3月	日本発達心理学会第16回大会	幼稚園、保育園の幼児の母親を対象に、虐待不安、夫婦関係、完全主義傾向を尋ねる質問紙を実施して、虐待不安を規定する要因の検討を行った。井田梢恵、小川梨奈、唐沢洋子、高野桂美、石崎一記 共同研究につき本人担当部分抽出不可能
8. 木製大型複合遊具が児童の遊びと社会性の発達に及ぼす影響（3）	共著	平成17年9月	日本教育心理学会第47回大会	小学校に設置された木製大型複合遊具での児童の遊びが社会性の発達、特にコンピテンスにどのような影響を及ぼすのかについて、質問紙法を用いて検討した。石崎一記、市村操一他共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p85 1ページ
9. 父親の子ども観および育児意欲が育児行動に及ぼす影響	共著	平成18年3月	日本発達心理学会第17回大会	幼稚園の幼児の父親を対象に質問紙を行い、その子ども観、育児意欲、育児行動を調べ、育児行動を規定する要因とその構造を検討した。東力彩子、石崎一記他共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p653 1ページ
10. 自然体験の心理的効果に関する予備的研究	共著	平成18年3月	日本発達心理学会第17回大会	自然体験によって何が変わるのかを明らかにするために、大学生を対象に、短縮版自然体験活動尺度と幼少期の自然体験に関する質問を実施して検討した。石崎一記他共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p286 1ページ
11. 自然遊びと子どもの発達	共著	平成18年3月	日本発達心理学会第17回大会	自然遊びが子どもの発達に及ぼす影響についてのラウンドテーブルを企画し、参加した12名で議論を行った。p211
12. 子育てにおける不安の内容の検討	単著	平成18年5月	日本保育学会第59回大会	幼稚園、保育園の幼児の母親を対象に、育児に関して感じる不安についての自由記述の回答をKJ法により分析を行い、母親が感じる育児不安の内容とその構造の検討を行った。p1052
13. 短縮版自然体験効果尺度の作成	単著	平成18年9月	日本教育心理学会第48回大会	自然体験の効果を検討するための尺度を改良し、現場で使いやすいものにするために、既存のデータの再分析を行い、新たに尺度の構成を行った。p164 1ページ

14. 援助的サマースクールによる発達支援	共著	平成19年3月	日本発達心理学会第18回大会	第1回から第6回までの援助的サマースクールの概略を整理し、それが子どもたちの発達にどのような意義を持つのかについて見当を行った。石崎一記、杉原一昭、他他共同研究につき本人担当部分抽出不可能 p454 1ページ
15. 大学における新入生オリエンテーションの工夫	単著	平成19年11月	日本カウンセリング学会第40回大会	大学における新入生に対する対応の効果を検討し、その意義と方法について検討を行った。
16. 日中における母親の母性意識の発達変容に関する研究1：幼児をもつ母親の育児感情と子どもへの学歴期待	共著	平成20年	日本教育心理学会第50回大会	
17. ママ友グループの形成を規定する要因について	共著	平成24年3月	日本発達心理学会第23回大会	
18. 発達観尺度の開発	共著	平成24年11月	日本教育心理学会第54回大会	